

平成31年度 自己評価計画書

No. 1

						石 川 県 立 寺 井 高 等 学 校	
重 点 目 標	具 体 的 取 組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1 総合学科の特長を活かし、主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、個々に応じた進路実現を目指す。	① 総合学科の特長を活かし、生徒の多様なニーズに合わせた科目選択や体験活動を通して、生徒の進路実現を図る。	教務 進路指導	担任との面接を重ねて、段階を踏みながら、自らの進路実現に向けて、より主体的に系列や科目の選択ができるよう指導している。	【満足度指標】 総合学科の特長を活かし、科目選択や体験活動が生徒の進路実現に繋がっている。	総合学科として、科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっている。 (ア) よくあてはまる (イ) ややあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない	(ア) + (イ) の% 9 0 % 以上 A 8 0 % 以上 B 7 0 % 以上 C 7 0 % 未満 D C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒・保護者)で調査する。
	② 学習習慣の定着と学びやすい学習環境を整備することによって、生徒がより主体的に学習しようとする意欲の向上につなげる。	教務 生徒指導 進路指導	朝学習の習慣が定着しつつあり、基礎学力の向上につながることが期待できる。学習環境も改善傾向にあり、さらに授業規律を意識させることで学習の効果を高めていく。	【努力指標】 授業規律を具体的に示し、集中して学習に取り組める学習環境を整備することで生徒の積極的な学習姿勢の確立に繋がっていく。	集中して授業に取り組むことができるようになったと感じる生徒の割合が A 8 0 % 以上 B 7 0 % 以上 C 6 0 % 以上 D 6 0 % 未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒)で調査する。
	③ 毎時間の授業において、学習目標、流れを明示し、振り返りをさせることで、学習内容の理解度と達成感を高める。	教務	授業の導入において、学習のねらいと流れを示す手法がしっかりと定着してきた。しかし、単元ごとの目標やゴールのイメージを認識できるものの、すべての生徒の意欲や主体性を高めるまでには至っていない。	【満足度指標】 授業が分かりやすいと回答する生徒が増える。	授業が分かりやすいと回答する生徒の割合が A 8 5 % 以上 B 8 0 % 以上 C 7 5 % 以上 D 7 5 % 未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	生徒授業評価で調査する。
	④ 個別進学指導や朝学習(マナトレ)、模擬面接等の充実を図り、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 各学年	平成31年度入試では、国公立大学には一般入試で2名が合格したが推薦入試では合格者を出すことが出来なかった。私大については、推薦/一般入試ともに、教科の学力伸張が必要になってきている。就職については、内定率100%を達成した。	【成果指標】 ア 国公立大学合格者数 5名以上 イ 私立大学合格者数 40名以上 ウ 就職内定率 100%	ア・イ・ウの3指標のうち A 3指標すべてを達成 B 2指標を達成 C 1指標を達成 D 3指標とも達成できず	C、Dの場合、改善の検討を行う。	3月に集計する。

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
2 部活動や体験活動を柱に、生徒のコミュニケーション能力や規範意識、自律心の向上を図り、人間力の育成に努める。	① 登校指導や街頭指導、地域に出向いての活動等で行う。	生徒指導各学年	服装容儀や挨拶の励行について、指導の効果が表れ、きちんと出来る生徒が増えてきている。	【成果指標】 生徒が自ら進んで挨拶が出来る。	自ら進んで挨拶が出来ると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒、保護者、教員)で調査する。
	② 交通安全教室や街頭指導等を通して、交通ルールを守る指導を行う。	生徒指導	平成30年度に警察から交通規則違反で指導を受けた生徒は、前年度の21人から56人に急増した。自転車と車との事故も6件発生している。能美警察署やライオンズクラブ等と連携し、交通ルールの遵守を指導している。	【成果指標】 生徒は交通ルールや自転車乗車マナーを守っている。	交通ルールや自転車乗車マナーを守っていると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒、教員)で調査する。
	③ 部活動の活性化を通して、生徒の自律心を向上させ、人間力を育成する。	特活	各部がそれぞれの目標を設定し、その達成に向けて工夫・努力している。目標を達成出来ていない部も多く、学校全体で各部の課題を共有しながら取り組んでいる。	【満足度指標】 生徒が部活動に主体的に取り組み努力することを通して、満足感や達成感を得る。	部活動に対し、満足感や達成感を感じている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)で調査する。
	④ 「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの問題に学校が一丸となって組織的に対応する。	全教職員	いじめの早期発見、未然防止のため、個別面談やアンケート調査の実施、教室の可視化や昼休みの校舎内外巡視の取組等、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう全教職員が取り組んでいる。	【努力指標】 いじめの未然防止に取り組む、発生時には迅速な対応をする。	いじめの未然防止に取り組み、発生時には必要な情報を共有し、迅速な対応をする教職員の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。

						石 川 県 立 寺 井 高 等 学 校	
重 点 目 標	具 体 的 取 組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
3 地域連携の充実や学校情報の積極的発信、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。	① 生徒が積極的に地域へ出ていく活動を推進する。	総務 特活	多くの生徒が地域行事への参加や体験、交流を行っている。地域社会で活躍出来ていると実感させることが、生徒の自己肯定感の醸成に繋がっている。	【成果指標】 生徒が地域の活動に積極的に参加している。	地域の活動に参加する生徒（実人数）の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	7、12、3月に調査する。
	② 学校ホームページの更新や学年・各課からの通信、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	総務	学校ホームページの更新を積極的に実施した結果、平成30年度の年間アクセス数が8万件を越え、前年度より伸張した。学年・各課からの通信やメール配信の活用について、改善を図っている。	【満足度指標】 学校行事や部活動紹介を充実させ、学校ホームページのアクセス数を増やす。	広報活動（学校ホームページ、学年・各課からの通信、メール配信）が充実していて、学校の取り組みに対して理解が深まったと回答する保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価（保護者）で調査する。
	③ 教員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、業務の効率化を図ることで、時間外勤務を削減する。	教頭 各課主任 学年主任	平成30年度一年間の本校教員の時間外勤務は、全教員の月平均は37時間14分であった。	【努力指標】 全教員が業務の効率化に向けてタイムマネジメントの意識を高める。	業務の効率化やタイムマネジメントの意識が高まったと回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価（教員）で調査する。